

大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）事後評価結果

| | |
|---------|----------------------|
| 大 学 名 | 早稲田大学 |
| 整 理 番 号 | 6 |
| 事 業 名 | AIMS7 多言語・多文化共生プログラム |

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

| | |
|--|--|
| (総括評価) <b style="font-size: 2em;">A | 事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。 |
| (コメント) | <p>本プログラムは、ASEAN の主要6大学と連携してコンソーシアムを形成し、多言語・多文化共生社会を視野に入れた世界益と地域益の両立を追求するコスモポリタン人材の育成を目的として実施されたものである。</p> <p>大学の国際戦略の下、AIMS 委員会を推進組織として国際教養学部内に設置し、機動的に取り組が進められている。また、全ての受入学生について留学前に多言語・多文化共生をテーマにした選択必修科目を履修させるとともに、日本語の履修を積極的に推奨することで来日後の学修・経験の質を高めるべく取り組んでいるほか、派遣学生に対しては、交流相手国の言語能力試験を開発するなど、より付加価値の高い魅力あるプログラムの実施に努めている。座学、フィールドワーク、ボランティア活動及びインターンシップ等の多彩な形式のプログラムも実施している。環境整備に関しては、受入学生に対して国際教養学部留学生の受入を担う職員を配置して一貫した支援を提供し、指定寄付金を原資とする奨学金の整備や渡航費、宿舍費等のサポートを設け、また、派遣学生については、現地語修得のための教員雇用など各種センターとの連携強化が成されている点は評価できる。英語による授業科目数及びAIMSの授業科目数は目標を上回っており、交流学生数についても派遣・受入ともに目標を上回る成果を挙げている点も評価できる。</p> <p>一方で、国際教養学部以外の学部においても学生派遣や科目提供が行われているが、今後より一層全学的に波及させていくための取組が期待される。また、母国語、英語及び現地語の3つの言語を駆使できる「プルーリリンガル」となることが目標として掲げられているが、これについて、アウトカムの評価や本プログラムで開発した現地語の言語試験など、事業運営における課題を含め対応策や成果を学内外に広く公開していくことが望まれる。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、引き続き質の保証を伴う発展的な事業展開によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことが期待される。</p> |